

➤ 自転車通行空間

課題	・自転車の交通量が多く、歩行者と錯綜する。
対策内容	歩行者の安全性を確保するため、自転車道、自転車専用通行帯等を整備することで自転車の通行位置を明示する。
効果	歩行者と自転車の錯綜が解消され、歩行者と自転車の接触する危険性が低くなる。

自転車専用通行帯を整備（長野県 諏訪市）

○対策前



・児童の登下校時に歩道部で歩行者と自転車が輻輳するため危険

○対策後



・歩行者と自転車を分離するため、自転車専用通行帯を設置

自転車道の整備（歩道隣接）（近畿地方整備局京都国道事務所）

○対策前



・自転車と歩行者の分離が明確でなく、歩行者と自転車が錯綜し、危険

○対策後



・歩行者と自転車を分離することで、歩行者、自転車双方の安全性を確保するため、自転車道を整備

自転車道の整備（車道近接）（関東地方整備局東京国道事務所）

○対策後



○対策後



- ・ 自転車と歩行者・車両等が錯綜する可能性のある区間に歩道から分離された自転車道を設置